

日本特別ニーズ教育(SNE)学会 2018年度中間集会(大阪) 二次案内

皆様にはお元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

日本特別ニーズ教育学会 2018年度中間集会の概要をお知らせいたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

2018年5月19日

日本特別ニーズ教育学会 2018年度中間集会・第24回研究大会(大阪大会)
大会実行委員長 後上 鐵夫 (大阪体育大学)

日時

2018年6月3日(日) 12:00~16:40

会場

大阪体育大学 同窓会館アネックス

〒530-0043 大阪市北区天満3丁目10-16

* 大阪市営地下鉄谷町線・堺筋線 南森町駅より徒歩8分

* JR東西線 大阪天満宮駅より徒歩6分

* 大阪(梅田)駅よりタクシー約16分

◇ 大阪→(徒歩6分)→東梅田→(地下鉄谷町線3分)→南森町→(徒歩8分)→会場

◇ 大阪→(徒歩7分)→北新地→(JR東西線3分)→大阪天満宮→(徒歩6分)→会場

◇ 天王寺→(地下鉄谷町線11分)→南森町→(徒歩8分)→会場



日 程

10:00～11:55 【理事会・編集委員会】

11:30 受付開始

12:00～14:00 【理事会企画：若手チャレンジ研究会】・・・研究室Ⅰ・Ⅱ

研究発表Ⅰ ・・・ 地下Ⅰ階 研修室Ⅱ

コーディネーター 田中 謙（山梨県立大学）

コメンテーター 堤 英俊（都留文科大学）

12:00～12:15 副代表理事挨拶・企画説明

12:15～12:30 井上幸大（東京学芸大学教育学部特別支援教育教員養成課程4年）

国立大学附属小学校に在籍する児童の困難と支援ニーズに関する研究
—児童本人および教職員への調査から—

12:30～12:45 直塚 咲（東京学芸大学教育学部特別支援教育教員養成課程4年）

教育実習において学生が有する困難の実態と支援ニーズに関する研究
—特別支援教育教員養成課程の学生への調査から—

12:45～13:05 眞鍋寿理子（立命館大学大学院社会学研究科修士課程）

盲ろう者の生活困難と生涯学習のあり方

—生活上の困難に関する調査結果からの課題の考察—

13:05～13:25 前田千英（東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程）

てんかんのある子どもの困難・ニーズの実態および支援の在り方
に関する研究（デザイン）

13:25～13:45 一井 崇（立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程）

学校教育から社会への移行、障害者雇用の展開

—よさのうみ福祉会の歩みと到達点—

13:45～14:00 討論・講評

研究発表Ⅱ ・・・ 4階 研修室Ⅰ

コーディネーター 村山 拓（東京学芸大学）

コメンテーター 野口 武悟（専修大学）

12:00～12:15 代表理事挨拶・企画説明

12:15～12:30 矢野竜太郎（東京学芸大学教育学部特別支援教育教員養成課程4年）

障害を有する教師の実態と支援ニーズに関する研究

－発達障害・精神障害を有する教師への調査を中心に－

- 12:30～12:45 田中裕己（大阪体育大学教育学部4年）
児童心理治療施設併設の分校・分教室における児童生徒の発達上の
困難・ニーズと支援に関する研究
- 12:45～13:05 高松健太（東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程）
病気の子どもへのQOLの保障と合理的配慮のあり方に関する研究
－病気療養の子ども本人、家族、教師への調査から－
- 13:05～13:25 伊藤 駿（大阪大学大学院・日本学術振興会特別研究員）
インクルーシブ教育に関する比較社会学的研究：日本とスコットラン
ドの「共に学ぶ」実践に着目して
- 13:25～13:45 川手さえ子（大阪芸術大学学生部キャンパスライフサポート室）
地域の中学校から特別支援学校高等部へ進学した子どものリアリテ
ィショック
- 13:45～14:00 討論・講評

14:10～16:40 【実行委員会企画：シンポジウム】・・・4階 研修室I

**子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支えていくのか
－支援が届きにくい子ども・保護者と特別ニーズ教育の課題－**

- 司 会 学会副代表理事・東京学芸大学教授 加瀬進氏
話題提供 大阪市立南港桜小学校校長 市場達朗氏
岸和田市立山直北小学校教諭 田中元氏
ピア・サポートセンター代表 森定薫氏
指定討論 大阪教育大学教育心理学講座教授 新崎国広氏

（事情により話題提供者が変更になりました）

参加者へのご案内

1. 参加費・参加申し込み等

参加費：会員・非会員ともに 1000 円

事前申し込みを行いません。当日お越しの際に参加費をお支払いください。
釣銭のないようご準備ください。

2. 受付

受付は、11:30 より行います。参加者は必ず手続きを済ませてください。

3. クローク

クロークはありません。お荷物は各自で管理をお願いいたします。

4. 学会関係諸会議

理事会・機関誌編集委員会 6月3日（日）10:00～ 詳細は後日学会事務局より連絡

5. 昼食

昼食休憩時間を設定しておりませんので、会場にお越しの前にお食事をお済ませください。会場付近には飲食店がいくつかございます。また、建物裏手にコンビニがございます。

6. 駐車場

駐車スペースはございませんので、公共交通機関をお使いください。

若手チャレンジ研究会発表者へのご案内

- * 研究発表者は研究会開始 20 分前までに受付をお済ませください。
- * 開始前に発表に関する諸注意等のご案内をいたします。
- * 研究発表者は研究会開始 15 分前までに PC 等の動作確認を行ってください。
- * 発表時間は後日お知らせいたします。
- * 会場ではプロジェクタの使用が可能です。パソコンを使用される場合はご持参ください。
- * 補足資料の配布が必要な場合は、事前に発表者が必要部数（40 部程度）を用意してください。当日、会場で印刷を行うことはできません。

シンポジウム関係者へのご案内

- * 関係者は 13:30 より打ち合わせを行います。打ち合わせ会場は当日ご案内いたしますので、受付にてスタッフにお声がけください。
- * PC のご用意は各自でお願いしておりますが、ご事情があればご相談下さい。
- * ご都合がよろしければシンポジウム前のプログラムにもどうぞご参加ください。
- * 会場ではプロジェクタの使用が可能です。パソコンを使用される場合はご持参ください。
- * 事前にお送りいただいた講演資料のうち配布可能なものは、実行委員会にて印刷・配布をさせていただきます。当日、実行委員会及び会場で印刷を行うことはできませんのでご了承ください。

若手チャレンジ研究会

2018年度の日本特別ニーズ教育学会（SNE 学会）中間集会では、初の若手企画として「若手チャレンジ研究会」を開催します。若手会員等による研究発表（卒業論文・修士論文・博士論文等の研究デザイン発表、卒業論文・修士論文の発表、『SNE ジャーナル』投稿や本大会研究発表を計画中の研究の発表等）を行い、それぞれの研究を更に深めていく・進めていくために有効な議論の場にしていきたいという想いのもとに、理事会が企画しました。研究歴がまだ浅い方々のチャレンジを応援する企画です。ぜひ皆様の積極的なご参加をお待ちしています。（非会員の方の参加も歓迎します）

シンポジウム概要

子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支えていくのか —支援が届きにくい子ども・保護者と特別ニーズ教育の課題—

企画趣旨

現代の急激な社会構造の変化、家庭の経済的格差や養育困難の拡大のなかで、不安・緊張・恐怖・ストレス等が複雑に絡み合い、自律神経失調症・心身症、抑うつ・自殺、不登校・ひきこもり・中途退学などの心身の発達困難、いじめ・暴力・被虐待、触法・非行などの多様な不適応を有する子どもへの支援が喫緊の課題となっています。そして、これらの課題は決して特殊ではなく、子ども全体の問題としてとらえることや「子どもの育ちと発達の貧困」の解消が第一義的な課題となっています。

子どもたちの置かれている状況は様々ですが、子ども・若者が多層的な発達困難に追い込まれていく現状のなかで、とくに障害の診断はないものの支援が必要な子ども、家庭の養育環境が不安定な子ども、児童養護施設等入所の子ども、非行・触法等の課題がある子ども、外国にルーツのある子ども、保護者が疾病・障害等を有している子どもなど、通常学級を中心とした「支援が届きにくい子どもや保護者」から、その「子どもの発達支援ニーズをどのように受け止め、支えていくのか」を、学校教育と他領域の協働の視点から議論したく、本シンポジウムを企画しました。日頃の教育実践や家庭・保護者・地域とのかかわりについて、子どもや保護者のリアルな声・姿をもとに考えます。

司 会	学会副代表理事・東京学芸大学教授 加瀬進氏
話題提供	大阪市立南港桜小学校校長 市場達朗氏（映画「みんなの学校」の舞台：市立大空小学校前校長） 岸和田市立山直北小学校教諭 田中元氏 ピア・サポートセンター代表 森定薫氏
指定討論	大阪教育大学教育心理学講座教授 新崎国広氏

なお、本シンポジウムの第2弾を11月17・18日に大阪体育大学（熊取学舎）で開催する第24回研究大会にて行います。詳細は後日、学会ウェブサイトに掲載します。

中間集会に関するお問い合わせ先

◎実行委員会事務局

立命館大学 産業社会学部 田部絢子研究室

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1

TEL：075-466-3230（研究室直通）

メール taikai@sne-japan.net

*ご連絡はできる限りメールでお願いいたします。